

ときめき人

Tokimeki bito



平筒沼いこいの森 見守り隊

隊員を随時募集しています。居住地は問いません。
【申し込み・問い合わせ】
吉田コミュニティ運営協議会 ☎ 0220(55)2124

米山町吉田地区、平筒沼を望む「平筒沼いこいの森」。整備された遊歩道を進んでいくと、天然のアカシデやカタクリなど、貴重な植物や野鳥を観察することができ、カモシカや野ウサギなどの野生動物も多く生息する。

平筒沼いこいの森見守り隊(伊藤昭一代表)は、2010年に発足。現在、14人の隊員が交代で月2回、森の中をパトロールし、倒木の確認や希少植物の盗掘防止、散策に訪れた人へ森の楽しみ方を伝えるなどのボランティア活動を続けている。「県内外からたくさんの方が、自然を求めてこの森を訪れます。リピーターも少なくありません。また、市内小学生の自然学習にも利用されています。ここで生まれた交流は、活動を続けていく上で大きな

支えになっています」と話す隊員の皆さん。

倒木や笹竹の繁殖が進むと、来訪者の安全を確保できなくなるほか、森に光が入らないことで山野草の成長の妨げになることも。市と連携して環境整備の一端も担っている。「自然を守っていくためには、ときに人の手助けが必要となります。共存していくことが大切なんです」隊員が集まると、環境保全について意見を話し合う。

いこいの森の自然と地域コミュニティに魅せられて活動に参加している隊員も多く「吉田地区には、地域のためにできることをやろうという、ひたむきな気持ちを持つ協力者が多いと感じます。地域の宝を守り、後世に伝えていくために、活動の輪を広げていきたい」と呼びかける。

編集後記

▼ふれあいあじさいまつりを取材。あまりの暑さに少し歩いただけでも、汗があふれ出てへとへとに。そんな私の脇をこどもたちは元気な声と笑顔を見せながら走り抜けて行きます。自分の幼いころを思い返すと、暑さを感じず、はしゃいでいた時があったと懐かしく思いました。(木戸浦)

▼まちの若い衆で取材した伊藤さんの趣味は筋トレ。私も体力を付けようとして筋トレを本気で始めてみました。その結果、背中を痛めて転がることも起き上がることも苦勞するほどの激痛に襲われて悶絶。その時に思い浮かんだのは「何事もほどほどに」という言葉。身に染みて実感。(高橋)

▼集合写真の撮影で「はい、チーズ」の代わりに「はい、ずんだもち」と合図しているカメラマンがいたので、まねするように。今回も「ずんだもち」している写真があります。さてどれでしょう。ちなみにカメラのこちら側も「いー」ってなっています。(渡邊)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tomiyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント、市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>